

2010年度

(財)福岡アジア都市研究所 (URC) 研究報告書

# 博多港寄港クルーズ船 中国人乗降客観光動向調査

要 旨

2011年3月



**URC**  
Fukuoka Asian  
Urban Research Center

## 要 旨

### I. はじめに

九州のインバウンド観光は、韓国人旅行者の海路による入国が一定の割合を占めているなど、船舶利用の形態が大きな特徴となっている。特に、近年においては九州各港への中国発の外国船籍クルーズ船の寄港回数が増加しており、中でも博多港（福岡市）においては、昨年、2010年の寄港回数が全国で最も多い61回を数えるなど、クルーズ船乗降客の受け入れ態勢を含めた、中国人旅行者を対象としたインバウンド観光振興策の充実が急務となっている。

このような現状をふまえ、本報告書では、2010年10月に実施した博多港寄港のクルーズ船乗降客を対象としたアンケート調査結果をもとに、今後、わが国の最大のインバウンド対象市場に想定される中国人旅行者の観光動向の実態を明らかにするとともに、福岡、九州や、わが国における中国インバウンド振興策のあり方について考察した。

### II. 調査の概要

調査は、2010年10月に博多港に寄港した中国発の2隻の外国船籍クルーズ船、「Legend of the Seas」（天津発着7泊8日・約2,000人定員・10月4日寄港）、「Costa Classica」（上海発着4泊5日・約1,700人定員・同13日寄港）の中国人乗降客を対象に実施した。

調査方法は、博多港に寄港後、下船して福岡の1日ツアーに参加し、太宰府天満宮等を観光した後、福岡市の繁華街、天神で2～3時間の買い物をした乗降客に調査票を配布し、任意で記入してもらった後、乗船前に回収する方式で実施し、808の調査票の回収を得た。

### III. 調査対象者の属性

調査対象者の「性別」は、男性50.5%、女性49.5%、「年代」は40代（31.7%）が最も多く、続いて、30代（23.6%）、50代（18.6%）、20代（11.5%）、60代（7.8%）、70代（4.1%）、10代（2.8%）の順となっている。「現在の居住地」は上海近くの江蘇省（53.1%）が約半数、続いて、北京市（28.3%）、上海市（4.9%）、天津市（2.0%）、その他中国が10.6%であった。「職業」は会社員が37.3%と最も多く、続いて管理職（17.2%）、専門・技術職（8.7%）、経営者（6.9%）、専業主婦（5.1%）、公務員（4.6%）などの順であった。

### IV. 福岡での観光消費に関する調査結果

乗降客の福岡での1人当たりの平均観光消費金額は4万3千円余りで、最も高額な回答は100万円であった。クルーズ船別の乗降客の1人当たりの平均観光消費金額では、上海発着の「Costa Classica」乗降客が5万2千円余り、天津発着の「Legend of the Seas」乗降客が3万4千円余りと上海発着の乗降客の方が1万6千円余り消費金額が上回っていた。

支払い方法としては「現金」と「銀聯（ぎんれい）カード」が各約4割となっているが、「銀聯」「クレジットカード」利用者の消費金額が「現金」の約2倍となっている。

また、購入した品目別の比率は、「食料品・飲料品」が56.5%と最も多く、続いて「化粧品」（35.8%）、「電化製品」（31.9%）、「洋服・バッグ・靴」（20.8%）、「時計」（20.8%）等が多く挙げられていたが、品目別の平均消費金額では、「電化製品」、「時計」、「洋服・バック、靴等」、「薬品等」、「化粧品」などが、2～3万円余りと高額になっている。

## V. 福岡の観光、都市に関する評価

乗降客が参加した福岡のツアーについての満足度調査では、「商業施設の定員の接客対応」、「福岡のボランティアガイド」において大変満足の回答率が高く、「買い物時間」、「街中での外国語標記（案内）」において大変満足の回答率が低かった。

調査結果から、クルーズ船中国人乗降客に対する福岡の受け入れ態勢の主な課題として、買い物時間が短いこと、街中での中国語標記や案内、商業施設での中国語対応を強化しなければならないことが明らかとなった。これら課題解決のため福岡市では国の「総合特区制度」の提案募集を受けて、海外臨船を含めた博多港のCIQ体制を強化して入国審査の迅速化を図ることや、言語対応を含めた買い物、観光案内のサポートの強化のために福岡の留学生等を活用した新たなガイド制度を創設することなどを提案しており、今後、対応策に取り組むための国の支援や規制緩和が期待される。

乗降客の福岡に対する印象についての調査結果においては、都市、自然の環境や景観に関する評価は高いものの、名所旧跡などの観光資源に関する評価は低かった。

## VI. 訪日中国人旅行者の観光動向とインバウンド観光振興策の課題

乗降客に対して、福岡にまた来訪したいと思うかを尋ねたところ、「また来たい」と回答した割合が75%に達した。一方で、乗客の85.5%が日本を初めて訪れているなか、今後日本へ旅行する際に訪問したい地域では、「東京」「北海道」が約7割、続いて「大阪」「名古屋」「京都」などが多く挙げられ、福岡も8番目にランクされた。

また、乗降客が、今後の訪日旅行で体験したいことでは、「買い物」よりも「自然景観や風景」「温泉」「日本料理」などの回答率が高かった。

次に、クルーズ船乗降客に、今回のツアーの計画の前から、「九州」「福岡」のことを知っていたかを尋ねたところ、「地名は知っていた」が約6割、「地理や位置など具体的に知っていた」が約2割、「全く知らなかった」が2割弱となっている。

これら調査結果から、今後は、福岡、九州が有する自然景観、温泉、食など独自の地域資源の魅力を積極的に情報発信することによって、認知度やイメージを向上させる取り組みがこれまで以上に必要であると考えられる。

乗降客の今後旅行してみたいアジアの国や地域では、日本は3番目に挙げられたものの、香港、タイ、ロシアと同程度で、シンガポールや台湾の回答率よりも遥かに低かった。近隣のアジア諸国においても、中国インバウンドを巡る誘致競争が活発化していることから、わが国がいかにアジア諸国と差別化を図り、効果的な中国人旅行者の誘致や受け入れ態勢の整備を進めていくかが、今後の課題と思われる。

## VII. おわりに

近年の訪日中国人旅行者の観光動向においては、旺盛な観光消費に関する部分に注目が集まり、地域経済への波及効果の側面のみが大きく取り上げられている様に見えるが、観光を通じた国民同士の往来による草の根交流が、国家間の外交を始めとする関係を補完する文化的安全保障としての国際観光交流の役割も忘れてはならない視点である。

現在、日中関係においては、領土や歴史認識を巡って課題が残り、両国の世論調査結果においても関係の悪化が懸念されている。わが国の中国インバウンド観光振興の取り組みが、中国人旅行者に日本の多様な魅力を伝え、両国民の交流が拡大することによって、いかに日中関係の改善や深化を図っていくか、それぞれの地域の取り組みに期待したい。



**U R C**

Fukuoka Asian  
Urban Research Center

---

2010 年度（財）福岡アジア都市研究所（URC）研究報告書  
博多港寄港クルーズ船中国人乗降客観光動向調査

<要 旨>

2011 年 3 月

財団法人 福岡アジア都市研究所  
調査実施・分析・執筆担当者 研究主査 新井 直樹

〒810-0001 福岡市中央区天神 1 丁目 10-1

T E L : 092-733-5686

E-mail : [info@urc.or.jp](mailto:info@urc.or.jp)

URL <http://www.urc.or.jp>

---